



## 経済と企業

令和7年9月8日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

金融経済と実体経済は経済の両面である。これらは資本と生産において経済が今日、存在するものであり、グローバリズムの形成を与えるものである。

これら金融と経済システムは、競争を原理とし、その進歩性を形成する。しかしこれら競争原理は、格差社会の源泉であり、資本主義における資本という基準とともに現実を行うことは真実である。

自由経済システムはこれら基盤に与えられる、一つの狂乱であり、西洋の倫理的思考が、その維持を行うものである。

これらは今日の世界経済の枠組みと現実であり、デジタル経済への転換を模索するものである。

これら経済のシステムの矛盾は、経済が豊かさを形成することを進歩として定義できることに対して、競争と格差という今日の社会問題の源泉への対応が希薄であることは理解できるものである。

人類が生存という絶対要求とともにその進歩を有し、今日の革命的な変化という新たな未来に直面することは真実である。

これらは振り分けを有することは理解できる。しかしこれらは原理原則における振り分けであるかもしれない。

これらは生存要求と競争という人類の現実が、未来という自己転換において、異なる現実を生むことを意味するものである。

これらは倫理的判断が世界を2分するものである。それらは欲望という経済に対して、自制という選択があるのかもしれない。

富という誘惑は、社会の現実であり、それらは個々人へその選択を与えるものである。